高校生の人権広報誌
"Freedom" 第21号
2016年 3月31日発行
編集 "Freedom"(フリーダム)編集スタッフ
発行 奈良県高等学校人権教育研究会
毎月11日は「人権を確かめあう日」

Freedom

東日本大震災、原発事故、豪雨等により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

昨年度はスタッフ会議のたびに新加入メンバーがあり、最終的には西の京高校、登美ケ丘高校、香芝高校、奈良情報商業高校、榛生昇陽高校、奈良大学附属高校の６校２１名が集まりました。感謝です。今年度も、投稿や編集スタッフに、ふるって応募してください!!

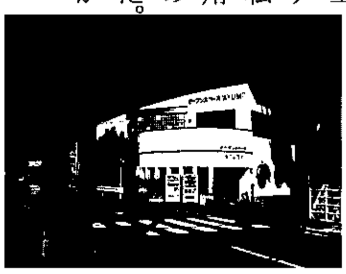
「オープンスペースAYUMI」ボランティア訪問

奈良大学附属高校　人権研究部

私は、昨年十二月十五日に、奈良大学附属高等学校生徒会役員の人たちと社会福祉法人あゆみの会「オープンスペースAYUMI」へボランティア訪問をしました。「オープンスペースAYUMI」は、重度から軽度の知的障害を持つ人たちが日常生活を、助けを介さずできるだけ自分の力でやり遂げることを目標として、練習・訓練をする生活訓練施設です。

私たちは最初、職員の人たちからその日の活動の流れを聞き、自分たちの担当する班を決めました。私は「ふきのとう」というクラスを担当することになりました。「ふきのとう」は話すことができない人や、たとえ話せても自分の意思を人に伝えることのできない人たちのクラスです。

私が「ふきのとう」クラスで最初に自己紹介をしたとき、緊張することも肩に力が入ることもありませんでした。その後、話すことのできない人は、その人なりの表現で自分の名前や施設内での愛称を教えてくれました。次に、運動会でする玉入れのようなゲームをして、私たちと施設利用者の人たちとの交流をしました。私は、力加減が上手くできず、



かごにボールを入れることができないのに、利用者の人たちは、上手にボールをかごに入れることができるのです。ここで私は「障害」という表現に何か違和感を覚えました。私たちは障害というと特別なもの・特別な人々だけに使われるものだと考えがちですが、ボールをうまく調節できない私たちも、得意・不得意という個性があり、障害も個性の一つではないかと思いました。

班ごとの交流が終わった後、私の高校の生徒会役員の人たちによる演劇『赤ずきんちゃん』を施設利用者のみなさんと鑑賞しました。演劇中、真剣に劇に見入る人や人の多い所が苦手な人、常に大声を出している人などいろいろな人がいましたが、その誰もが自分なりに劇を楽しんでいたように思います。「ふきのとう」クラスの人で、騒がしいところが苦手だという人がいましたが、彼も彼なりに楽しんでいたように感じました。一人ひとりがそれぞれの楽しみ方をしているところを見ると、私たちの学校生活と何ら変わりがないように思いました。

ボランティア訪問を終えて、私は障害を持つ人たちを特別な目で見てはいけないと思いました。ただ理解するのに少し時間がかかるだけなので、私たちが障害を持つ人を特別な目で見ずコミュニケーションをとれば、必ずその思いは伝わり、答えてくれます。この精神は、日常接する人とのいかなる関係にもつながるものだと思います。つまり偏見を持たずに人と接することが大切だと、私は「AYUMI」訪問で学びました。

(奈良大学附属高校　森園　龍太)

高解研 研修・交流会 参加体験記

『高解研 研修・交流会』に参加して

私は昨年、福祉科に入学して、すぐにボランティア部と人権問題研究会に入部しました。人問研には三年生の男子部員が一名いただけで、定期的な活動はしていませんでした。私自身も、福祉科の勉強や実習などに慣れないこともあって、日々の活動を行うことができませんでした。ある日、担当の先生から『高解研研修・交流会』への誘いがあり、初めて参加することにしました。

この研修・研修会は、一月三十一日(日)に桜井市中央公民館で行われ、十二校三十三名の生徒の参加がありました。

午前中の研修会では、高校生平和大使の小林さん(高田高校)から、奈良や長崎やジュネーブでの活動紹介と核兵器廃絶のアピールがあり(※)、続いて奈良市立都南中学校の松田先生から『沖縄の今を知ろう』をテーマに、沖縄戦から現在までの沖縄について講演がありました。

調理実習では、沖縄料理の「ジューシー(豚肉入り炊き込みごはん)」と「そうめんチャンプルー」などを調理し、全員で美味しく・楽しくいただきました。

午後の交流会では、各校からの活動報告と意見交換が活発に行われました。初めて参加した私は、緊張して意見を言えなかったのが少し残念でした。その後、「フリーダム」のスタッフ会議にも参加して、この研修・交流会の体験記を担当することになりました。

今回初めて参加しましたが、他校の部員の頑張っている姿に元気をもらうことができました。次回には、本校の活動報告ができるように、また自分から声をかけて、たくさんの友達がつくれるようにしたいと思います。そのためには、ボランティア部の部員や友達にも声をかけ、校内や

(二面に続く)

【深雪の日記#4】「貴方が好き」

御幸橋　深雪（Miyukibasi Miyuki）

皆さん、お久しぶりです。深雪です。今回は、「好き」という漠然としたテーマですが、それについて私の思うところを書こうと思います。

恋愛、それは誰しもが経験するものです。しかし、そこに立ちはだかるものによって、好きになった人とお付き合いするのも上手くいかないこともあります。たとえば病気や生まれつきの障害、交通事故などによる障害を持つことで、家族、親戚や周りの友達などから反対される場合もあります。それは、人格を無視して、偏見という色眼鏡で周りの世の中を見てしまっていることに起因すると私は思います。

障害に対する理解が高まる一方「あの人には障害があるから関わらないほうがいい」と、障害者との結婚・恋愛は負の方向に進むというのです。そこには「治療にお金が掛かり、老後が心配だから」や「何だか嫌」など具体的なものから十分な根拠をもたない偏見で話されるものまでいろいろ存在します。

しかし、当の本人達はそんなことは考えないと思います。つまり、偏見を持って人を評価する時点で間違いだと私も考えます。恋愛にはどんな難題をも乗り越える力があります。それに対する妨害は誰にも許されないことです。

以前、ある講演会で中途障害者（病気や事故で障害者となった人）の話を聞いた事があります。その内容は障害を持つ前から付き合っていた女性と、障害を持った自分とが結婚するということに、周囲から反対されたというものでした。しかし今では互いに支えあう二人の姿を見て、周囲の不安や反対は二人への協力に変わったそうです。

私達は恋愛を通して世の中の偏見を打開し、差別によって苦しむ人がいない世界にするべきだと思います。私は恋愛にそれだけの力があると信じます。

皆さん、今回の深雪の日記は如何でしたか？これが最後となりました。二年間、御清覧有り難うございました。

（一面より続く）

校外での活動を始めたいと思います。

みなさん、ありがとうございました。

（榛生昇陽高校　源内　瑞希）

※第十八代高校生平和大使 小林さんのアピール（要旨）を紹介します。

「高校生平和大使は、核兵器の廃絶と、戦争のない平和な世界の実現に向けて、月一回、近鉄奈良駅前等で仲間と署名活動を行っています。全国で集められた署名は、毎年、スイスのジュネーブにある、国連欧州本部に提出されますので、私も夏に現地まで行ってきました。今回の研修・交流会のような、いろんな活動に参加できることは、とても嬉しいです。」

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。

ならサンウリムに参加して

香芝高校ハートフルクラブ

私たちは、昨年十一月十五日（日）に、奈良県人権センターで開催された「ならサンウリム二〇一五」に参加しました。初めての参加でとても緊張しましたが、すぐに慣れて交流を楽しみました。

私たちは、在日外国人生徒交流会として参加しました。（在日外国人生徒交流会は、奈良県の高校に通っている外国にルーツを持つ生徒やその仲間が集まって交流を深めている集まりです。）他には、畝傍中学校夜間学級や地球市民フォーラムなら、外国人労働者奈良保証人バンク、ZGK（在日外国人問題研究会）、NPO法人いこま国際交流協会、奈良県高等学校教職員組合、部落解放同盟奈良県連合会等々、その他にもたくさんの団体が参加していました。人権について関心のある中学生から大人までの集まりは、色々な意見があり、とても勉強になりました。また、文化について強く興味を持ちました。

私たち在日外国人生徒交流会は、チュロスとバナナはるまきをバザーに出しました。目の前で揚げているので、小さな子ども達が、今か今かと待って足踏みをしている姿は印象的で、かわいかったです。味はどちらもカリッと熱々でおいしかったと評判も良くて、嬉しかったです。他の団体の店では、水餃子やチャプチェ、ぽーぽー（沖縄のお菓子）、中華粥、ペルーの民芸品、世界のビールなどがあり、大変にぎやかでした。

館内では、世界の遊びコーナーや世界の民族衣装を着てみようコーナー、世界の言葉クイズコーナーと世界について色々知ることができました。特に民族衣装を着てみようコーナーでは、タイの友達と深く交流できるきっかけとなりました。また、展示コーナーでは、沖縄戦の映像や夜間中学校の展示などがありました。沖縄戦の映像を見ていると、胸が痛めつけられるほどの衝撃的な場面が何度もあり、苦しかったのですが、誰かが頑張ってくれる、ではなく、私たち自身の手で平和について伝えていかなければならないと改めて感じました。

出会いとつながり、多文化共生の祭りとして始まった「ならサンウリム」は、二十二年目の伝統ある祭りで、毎年外国にルーツを持つ多くの人々が集い、互いの文化を交流できる多文化フェスティバルとして、注目されています。プログラムも充実していて、とても楽しい思い出を作ることができました。また、アメリカやフィリピン、タイ等のルーツを持った高校生と友達になることもできました。

私は、「ならサンウリム」の中で一番良いと思ったのが、外国にルーツを持つ人々と身近に話す環境が整っていることです。言葉が違っても、周りの人々が優しくサポートしてくれます。お互いのさまざまな食文化や衣文化を体験し交流できる機会は少ないと思うので、是非皆さんも参加してほしいと思います。

（香芝高校　前川　翔平）

高校生の人権広報誌

"Freedom" 第21号（2016年3月31日発行）

発行　奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133　奈良市大安寺1-23-1

奈良県人権センター内

TEL 0742(62)5555　　FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

HP http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/

※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。

※本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。（「高人教」で検索してください）

※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。